

特別寄稿

悲願・そして、新たな挑戦

秋工バスケットボール部
コーチ

片桐 博美



このたびのウインターカップ2017の出場に際しまして、三平俊悦会長をはじめ東京秋工会の皆様より温かい御支援、御声援を賜りまして誠にありがとうございました。

ウインターカップ2017で主力の#4広川、#5宮野、#6片村の3人は、入学当初から「全国大会出場」を目標に練習に励んできました。中学時代からライバルとして戦ってきた彼らは「秋工と一緒に全国大会へ行こう。」と宮野の呼びかけで集まり、1年時から選手としてエントリーされ、2年時から主力として県予選決勝を経験しており、3年時は結果が求められる勝負の年でした。迎えたインターハイ予選。3位という結果となり、目標としていた全国大会出場が叶いませんでした。この厳しい現実を受け入れることはなかなかできませんでしたが。しかし、この経験が3年生3人の絆をより強固なものとし、「絶対勝つ」という強い信念をチーム全員に植えつけ、より良質な練習が日々できたのではないかと思います。そして、昨年10月に開催されたウインターカップ秋田県予選会では、準決勝で能代工業高校を1点差で破った平成高校に2点差で勝利し、決勝では劣勢ながらも後半逆転して念願の全国大会出場の切符をラストチャンスで手にすることができました。



2017年ウインターカップ東京体育館会場

本大会では、「秋田県の皆さんに一つでも勝利を届けたい。」という思いのもと、秋田県代表としてチーム全員で戦いました。一回戦不戦勝で二回戦は、岐阜県代表の美濃加茂高校と対戦しました。長身選手とゾーンディフェンスに悩まされました。しかし、大会前から課題としていたリバウンド、ルーズボールをもぎ取るボールへの執着心が相手よりほんの少し上回ったことと生命線である3点シュートを生かすために、スクリーンプレーを駆使しノーマークをつくる連携に磨きをかけてきたことが初戦突破につながったかと思います。三回戦は、インターハイベスト8の広島皆実高校と対戦。立ち上がりターンオーバーから相手の速攻を許し15点差をつけられてしまいましたが、1Qで1点差まで挽回し、その後も必死に相手に食らいつきましたが、後一本のシュートとフリースローの精度を欠き金星を逃してしまいました。しかし、最後まで選手たちは気迫溢れるプレーで戦ってくれました。



試合中

全国大会出場を長い間夢見てきたことが実現し、東京体育館のコートで戦うことができたのは、生徒をいつも支えてくれている父母の会の皆様、日頃から理解と活動環境を整えてくださった校長先生をはじめ学校職員、大会前お忙しい中胸を貸していただいたOBの方々、バスケットボール協会の皆様のおかげだと思っております。重ねてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



応援席

投稿作品を募集中！

(会報金砂に掲載する作品・記事は“随時”受け付けています)

<募集作品> 俳句・短歌・イラスト・書・絵画(写真)、
還暦・古希・喜寿などを迎えて、
体験談・自分史・同級会報告など

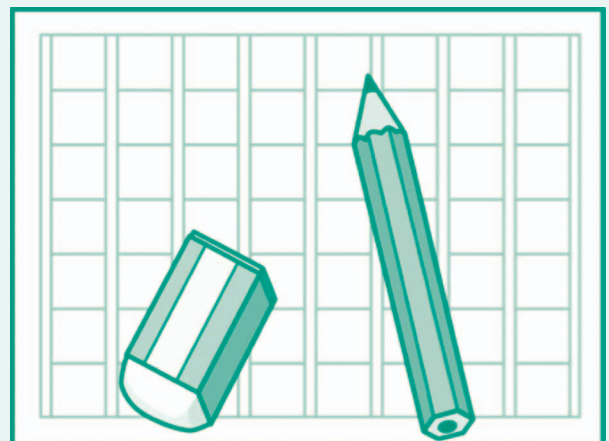
- a 記事には、作者の「顔写真」と「文中に載せる写真」が必要です。
(投稿記事と写真は原則返却できませんので承願います)
b 作品に「卒年科・メールアドレス・電話番号・郵便番号と住所・氏名」
を添えて送付ください。

※文字数や紙面割りは事前に内容を連絡いただければ、ご相談に応じます。

<送付・連絡先> メール：saga_ryouhei@ybb.ne.jp
“saga”と“ryouhei”の間は、アンダーバー《英文キー：Shift+ろ》

- 郵送の場合 〒370-1203 群馬県高崎市矢中町1010-8
「嵯峨 良平」宛 (TEL080-1282-9458)

※メールでお送りいただける場合は、郵送の必要はありません。



あなたの作品を待ってます